

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立小城高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	本校生徒の大多数は、大学をはじめとする上級学校への進学を希望している。昨年から「学力向上」研究指定校として、授業改善とキャリア・カウンセリングの視点を取り入れた対話の実現を柱としたキャリア教育のさらなる充実に取り組んでいる。合格実績のみならず、ICT利活用教育を通じた分かる授業の創造、豊かな学習時間の時間を生み出す効果的な指導、個に応じた学習活動の充実により、生徒の「生きる力」の育成を図る。
------------------	---

2 学校教育目標	本校の校訓である「創意(Originality)」「挑戦(Challenge)」「誠実(Integrity)」を実践する。「文武一途」を奨励し、総合力としての「生きる力」を育成する。国の教育方針や教育改革の流れに敏感に反応し、進んで「教育イノベーション」に取り組む。
----------	---

3 本年度の重点目標	「確かな学力の育成」：「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間力」の育成、基礎学力の定着、個に応じた受検学力の育成 「豊かな人間性の育成」：(情報)モラル教育の推進、「いじめ」の防止対策の推進、ボランティア精神の涵養、人権・同和教育の充実 「健康・体力の育成」：部活動の活性化、健康の自己管理能力の育成
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の定着及び進路実現を見据えた学習指導を行う。	○授業改善を行い、教職員全員が年1回は教研究授業を行う。 ○ICT利活用率を100%にする。	・AL的な視点(主体的な学び、対話的な学び、深い学び)に立った指導法を研究し、授業改善に取り組む。 ・ICT利活用教材「Classi」、「スタディーサプリ」を活用して生徒の学習時間等の実態把握に努め、個別に指導を行う。	A	・AL的な視点(主体的な学び、対話的な学び、深い学び)に立った指導法を研究し、授業改善に取り組んだ。全教職員が公開の研究授業を行った。 ・アンケートでICT利活用率は、91.0%であった	A	・電子黒板は、全職員利用で、学習用PCは、英語のデジタル教材利用や個別教材で利用していることが分かりましたが、今後、独自教材や個別の学び(家庭学習を含む)での利活用を期待します。 ・学力向上研究指定で、授業改善に向けた公開授業を全職員行ったことで、成果目標は達成されている。	研修(研究主任)
	○キャリア教育の充実 ○生徒の進路志望の実現	○個人面談を年3回以上行い、自らの生き方を考えさせ、興味・関心、能力、適性に基づいて主体的に進路を決定できる能力の育成を図る。 ○国公立大75名以上、難関4年制大学5名以上の合格を実現する。	・教職員はキャリア・カウンセリング・マインドとスキルの共有を図り、個人面談等を行う。 ・総合的な探求の時間、キャリア教育講演会等の行事を通して、生徒のキャリアデザイン力の育成を図る。 ・学習および進路指導充実のために、細やかな個人面談を行う。また、時宜を得た教科担当者や学年担当者の連絡会議や3年生の進路検討会を実施し、現状や課題、指導指針の共有を図る。	B	・個人面談を3回以上(1学期、2学期には、面談週間も実施した。)実施できた。 ・各学年において充実した進路検討会、教科担当者連絡会を実施できた。 ・3年生の進路について、本人および保護者との丁寧な面談に基づいて、概ね希望の進路を実現できているが、国公立大学合格者の数については75名に達するかどうか、微妙な状況である。 ・人権学習・進路保障HR活動を全てのクラスで実施した。 ・生徒および職員を対象とする人権・同和教育講演会を実施した。	B	・個人面談3回以上は、目標は達成している。 ・高校でも、個別の生徒の指導にあたる時には、なりたい自分、就きたい仕事をイメージしつつ、生徒の第一志望を達成をめざす指導をしていることが分かりました。なりたい自分に近づける高校であると思います。	研修(研究主任) 進路指導主事
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒や職員が人権感覚を身につけるための、研修機会を年2回以上確保する。	・人権学習・進路保障HR活動を全てのクラスで実施する ・人権・同和教育講演会を実施する	B	・人権学習・進路保障HR活動を全てのクラスで実施した。 ・生徒および職員を対象とする人権・同和教育講演会を実施した。	B	・コロナ感染で高校生への誹謗中傷問題があり、生徒に色々な機会に注意喚起しているところでしたが、話し合いを持って意識を高める機会を設けられる良いと思います。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていてと回答した教職員の割合を70%以上にする。	・いじめアンケートを実施し、正確な実態把握に努める。 ・全校集会や学年集会などで、いじめや差別や偏見につながるような行為は許されないことを訴え、道徳心の育成に努める。 ・情報モラルに関する講演会を行う。	A	・アンケートで、いじめ防止等について組織的対応ができていてと回答した教職員の割合が76%であった。 ・情報モラルについて、1学期の三者面談時に資料配付をした。 ・2月にいじめ対策の校内研修会を実施	A	・職員アンケートで組織的対応について、7割以上が出来ていると答えたことは目標を達成していると思います。今年度は、SNS関係について、個別の指導をした、フォローが大切だと思います。 ・いじめられている生徒にとって相談できる場所(相性の良い先生とか)が沢山あると思います。	(主)生徒指導主事 (副)各学年主任 ・情報主任
●健康・体づくり	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎郷土小城や佐賀について学ぶ活動や講演会を実施し、アンケート等で郷土に愛着を持っている生徒80%以上にする。	・「キャリア教育講演会」や「さがを誇りに思う講演会」を実施し、佐賀から世界へ事業を展開している企業等の代表者から話を聞き、地元小城や佐賀の魅力を深める。	A	・地元NPO法人代表による「さがを誇り思う講演会」を実施し、佐賀の魅力やSDGsへの取組等お話をいただき、生徒の地元佐賀への誇りや愛着を高めた。 ・アンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかと言えば感じる」と回答した生徒89.8%であった。	A	・キャリア教育について、自分に合う合わないだけ考えて、すぐ離職する人がいます。働くことの意味をしっかり教えて欲しい。 ・生徒アンケート結果から、本校の求める生徒像にもある「ふるさと佐賀を誇りに思う」は、ふるさとに自信が持てる目標を達成していると思います。	研修主任
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上 ○朝食をとって登校する生徒85%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりを発行する。 ・保護者への個別の連絡をする。	A	・食に関する講演会を12月に実施。 ・アンケートで「健康に食事は大切である」と考える生徒99.8%であった。(2月時点) ・アンケートで朝食をとって登校する生徒95.3%であった。 ・食に関する意識調査を12月に実施	A	・生徒アンケート結果から、目標を達成していると思います。 ・アンケートで「健康に食事は大切である」と考える生徒99.8%であった。(2月時点) ・食育の講演会は、食事の大切さをわかりやすく伝えていた。特に、家庭と一緒に取り組む弁当作りや朝食作りへの感謝の気持ち(本校朝特課の始まりは7:35分)、進学してから食の大切さをよく伝えていた。PTA役員にも好評であった。	保健指導主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定、学校閉庁日の設定、部活動休養日の設定をする。 ・週休日の出張に振休の促進をする。 ・業務、会議の効率化に取り組む。	B	・時間外在職等時間の上限を遵守するよう、教職員へ呼びかけを欠かさず行った。遵守できない数名の職員には管理職から直接指導をした。また、産業医面接を校内で毎月実施した。	B	・昨年より意識改革が進んで長時間労働は、減った。数名、部活動の指導に熱心で、遠征などで長時間になってしまった職員がおり、管理職からアドバイスをしている。ガイドラインがあるので、意識を高めてもらいたい。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の充実 ○早期発見、早期対応の徹底	○合理的配慮について、必要な生徒及び保護者の理解100%。 ○2次障害を発症する生徒0	・生徒及び保護者との面談、適切なSCの活用。合理的配慮の実施及び評価の徹底。個別の支援・指導計画の作成を行う。 ・毎月教育相談会議を開催。情報共有。	B	・生徒及び保護者との面談を行い、合理的配慮について、必要な生徒及び保護者に説明を行った。 ・適切なSCの活用が出来た。希望者が多く、SCの割り当て時間が不足した。 ・毎月教育相談会議を開催して、情報共有をした。	A	・合理的配慮やユニバーサルデザインの発想をこまめに行っていることが分かりました。 ・中学校では、進学の世話をしてくれる場所が特別支援学級があります。その点については、今、大学でも教育相談の機関があって、昨年度も本校の教育相談係から配慮申請を行っております。	教育相談部主任

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>①今年度は、コロナウイルス感染症の全国的な流行を受けて、授業、行事、部活動大会等の制限または中止を余儀なくされた。そのような状況下でも、保護者に対する「教育活動アンケート」から、本校の教育諸活動には概ね90パーセント以上の肯定的な評価を得た。特に、教職員のICTの利活用に満足しているとした保護者の評価が上昇した。 ②今年まで2年間、本校は「学力向上」研究指定校として、授業改善及びキャリア・カウンセリングの視点を取り入れた対話の実現を柱としたキャリア教育の充実に取り組んだ。特に今年度、授業改善に向けた研究授業に全職員が取り組めたことは良かった。そのことは、教職員の資質向上に繋がっている。 ③教育の第一義である生徒の安全安心な学校生活の確保のために、教育相談の充実を図るため、常駐体制を取り、sc及び外部機関と連携を取りながら、適切な取組を実践することができた。次年度以降も多様な生徒の指導・</p>
----------------	---